

| 学年 | 授業 時数 | 教科 | 科目 | 教科書名 | 副教材 |
|------------|----------|-----|----|--------------|--------------------|
| 高2 (特進) | 2 | 公民科 | 公共 | 『詳述公共』(実教出版) | 『最新図説公共』 (浜島書店) |

1、授業の目標

現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。

よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

2、授業の取り組み方

I C T機器の活用により効率的な授業を展開する。教科書・資料集・ノート・タブレットを用意すること。

※I C T機器は担当教員の指示があるとき以外は、机の中にしまっておくこと。

3、学習上の留意点

「公共」はさまざまな問題を自分の問題として考え、正しく判断することが求められる科目である。学習の中身は、政治や経済、倫理と密接に関係している。用語を覚える際には、用語を覚えようとするよりもむしろ用語の意味やその内容を理解することが大切である。意味も分からずに用語を覚えても、試験での点数にはつながらない。そして学習上最も大切なのは、学ぶ姿勢である。受け身の学習姿勢では成績向上は望めない。また、I C T機器の活用によるアクティブ・ラーニング (A L) は「目的」ではなく、あくまで主体的学習のための「手段」である。したがって、自ら学び、調べるといった積極的な姿勢、正にA Lの姿勢を保ち続けることが一番の学習上の留意点となる。

4、教科書・副教材

<教科書>『詳述公共』(実教出版) <副教材>『最新図説公共』(浜島書店)

5、評価方法

- (1) 定期試験…定期考査 5 回 (100 点×5 回) 計 500 点
- (2) 平常点…1 学期 20 点+2 学期 20 点+3 学期 10 点 計 50 点
- (3) ノート (プリント) 提出・課題提出などについてはその都度発表する。
- (4) 定期考査、平常点等を基に「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の 3 観点について評価する。

6、定期考査

授業で扱った事項および試験前に指定した範囲から出題する。
提出課題・応用・発展・時事問題を出題することもある。

7、年間指導計画

| 期 | 月 | 単元名・学習項目 | 評価方法 | 到達目標 |
|-------------|----|---|------------------------------|---|
| 1 学 期 | 4 | 第1編 公共の扉 第1章 社会を作る私たち 1 生涯における青年期の意義 2 青年期と自己形成の課題 3 職業生活と社会参加 4 現代社会と青年の生き方 | 課題など 中間考査 課題など 期末考査 | <ul style="list-style-type: none"> ・自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長する人間としての在り方生き方について理解する。 ・人間は、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解する。 ・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解する。 |
| | 5 | 第2章 人間としてよく生きる 1 ギリシアの思想 2 宗教の教え 3 人間の尊厳 4 人間の自由と尊厳 5 個人と社会 6 主体性の確立 | | |
| | 6 | 7 他者の尊厳 8 公正な社会 第3章 民主社会の倫理 1 人間の尊厳と平等 | | |
| | 7 | 2 自由・権利と責任・義務 | | |
| | 8 | 夏期休業 | | |
| 2 学 期 | 9 | 第2編 よりよい社会の形成に参加する私たち 第2章 日本の政治機構と政治参加 1 政治機構と国民生活 | 課題など 中間考査 課題など 期末考査 | <ul style="list-style-type: none"> ・政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解する。 ・多様な契約及び消費者の権利と責任、職業選択、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解する。 |
| | 10 | 2 人権保障と裁判所 3 地方自治 4 選挙と政党 5 政治参加と世論 | | |
| | 11 | 第4章 経済活動のあり方と国民福祉 1 日本経済の歩みと近年の課題 2 中小企業と農業 3 公害防止と環境保全 | | |
| | 12 | 4 消費者問題 5 労働問題と雇用 6 社会保障 | | |
| | | 冬期休業 | | |
| 3 学 期 | 1 | 第3章 現代の経済社会 1 経済社会の形成と変容 | 課題など 期末考査 | <ul style="list-style-type: none"> ・雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働きなどに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解する。 |
| | 2 | 2 市場のしくみ 3 現代の企業 4 経済成長と景気変動 5 金融機関の働き | | |
| | 3 | 6 政府の役割と財政・租税 | | |
| | | 春期休業 | | |

※理解度やその他の都合により省略や前後することもありうる。